



本名は石村日郎
 2 鬚光《帽子をかむる自画像》
 (1907-1946)
 1943 (昭和18)年、油彩・カンヴァス

作者は広島県(現・北広島町)生まれ。新しい表現を追求しながら活躍を続けましたが、兵隊として渡った中国で病気にかかり亡くなりました。

不安や息苦しき、色んな思いがある中、せめて絵の中では自分を力強く描こうとしたのかもしれないね

この頃、中国やアメリカと戦争をしていた日本では、毎日戦争の知らせが届いていたわ

鬚光さんの周りも兵隊にとられ、若い男の人はほとんど残っていなかったそうよ

アカが座ると何かエラそ〜…

ふんっ

私も座ってみてもいい？

もちろん、どうぞ

あん？

何？

何でもありません！

ケンカしないのよ

この作品を見た！

がっしりした肩に、太い首！

自画像だから…作者はたくましい人だったのね



3 小林千古
 (1870-1911)
 《ミルク・メイド》

1897 (明治30)年、油彩・カンヴァス
 作者は広島県(現・廿日市市)生まれ。アメリカへ出稼ぎで渡り、そこで美術を学びました。

出稼ぎ労働者としてアメリカに渡ったの

この女の人姿にも、画家をめざして地道に歩む作者の人生が重ねられているのかも…

働くことは、作者にとって大事なテーマだったんだね

強い日差しの中、両手に荷物を持って、大変そう…！

次は日本洋画ね

あー

早起きしたからお腹が空いてきちゃった！

あれ？

何だかいいにおいがするよ

あら、早かったのね

色絵馬のおふたりに…そちらがお客さんね？



注 館内での飲食は禁止です。

やった〜

ちようど紅茶をいれたところよ

フライケーキ(※)と一緒に召し上がれ♪

※南薫造の故郷、広島県呉市の名物



1 南薫造《坐せる女》
 (1883-1950)
 1908 (明治41)年、油彩・カンヴァス

作者は広島県(現・呉市)生まれ。東京美術学校を卒業後、ヨーロッパに滞在し、絵の勉強を続けました。光の表現を追求した、温かみのある豊かな色彩表現で知られています。

描かれているもの、それぞれの質感がよく伝わってくるね！

軽くてフワツとした髪の毛感とか、お肌のしっとりとした感じ、リアルに想像できるわ

白い腕が、すべすべでやわらかそう、

なんだか照れるわ

テーブルの上にも注目してみて

花びんは硬くてツルツとしていて、花びらはふんわり、やわらかそうに見えるでしょう？

作りかけの刺繍もある！

描かれているもの、どれも落ち着いた雰囲気があって、《坐せる女》さんの穏やかで、上品なイメージにぴったりだね

お上手ね！